

令和元年度長崎大学ワークスタイルイノベーション～働き方見直しプログラム～ 中間報告会 開催報告

【日 時】令和元年 3 月 25 日（水）14：00-15：10

【場 所】長崎大学附属中学校 会議室 2 階

【参加者】33 名（藤本副学部長、附属中学校教諭 24 名、ダイバーシティ推進センター 5 名、外部コンサルタント 2 名、働き方見直し推進委員 1 名）

【プログラム】

- 14：00-14：05 (05) 挨拶、趣旨説明
- 14：05-14：12 (07) 発表①英語科チーム
- 14：12-14：19 (07) 発表②社会科チーム
- 14：19-14：26 (07) 発表③理科チーム
- 14：26-14：31 (05) 質疑応答
- 14：31-14：38 (07) 発表④数学科チーム
- 14：38-14：45 (07) 発表⑤国語科チーム
- 14：45-14：52 (07) 発表⑥保健体育科チーム
発表⑦技能科チーム
- 14：52-14：57 (05) 質疑応答
- 14：57-15：10 (10) 総括&フィードバックシート記入

1. 挨拶、趣旨説明

最初に吉田ゆりセンター長より挨拶があった。中間報告会は他チームの進捗状況を共有しつつ、新しい課題を見つけ、また学校全体でできるところは検討いただき、方向性を示す会でもあるとの趣旨説明があった。働き方改革は大きなパワーを要するが、今回新たな仕事を見いだしたと思われる。今回の資料を拝見し、新しい仕事を増やしただけにならないよう、各チームで努力をしていただいたことを感じ、附属の先生方の努力と前向きな姿勢に対し、敬意を表された。また、今日から新たな方向付けができるようにと、期待が語られた。



2. 発表

①英語科チーム

- 時間を有効活用する
- 達成度：開始時 30%→現在 60%
- 報告概要（発表者：石隈教諭）

教科部会で行うカエル会議及び月 1 回の定例会を行い、現状を変えるための前向きな気持ちと不安を交差しながらも、職場及び家庭でも時間を有効活用することを目標として、4つのアクションを実施した。退庁が遅かったことから①20:30を目途に退庁することとし、先を見通して取り組んだ。できるようになると、さらに②20:20を目途に退庁時間を短くし取組を行っている。また、早く帰れる日は帰るようにしている。



次に、教材研究にかかる時間がないことから、③教材・資料等を共有するとし、取捨選択や負担軽減のためにフォルダー内は統一しないこととした。活用しにくい場合は、次年度改

善することとした。次に④休みを取りづらいことについて、突発的な休みに備えた取組みとして、互いの進捗の確認ができるようホワイトボードを活用した。そのほか課題は沢山あるが最終報告会に向け検討していきたい。

②社会科チーム

■ゴールイメージ：正確かつスピーディーな仕事を心がける。目指せ！週1定時退庁

■達成度：開始時 60%→現在 80%

■報告概要（発表者：佐藤教諭）

社会科チームの強みであり弱みは在任期間が長いことである。どういう風に改革するか、今成果は出ないかもしれないが、次年度新任教諭を迎え、その方の感覚を大事にし、改革しようと考えている。

現在の取組みは、①情報共有の時間の少なさ、②カエル会議の義務感、③業務が分担できていないことから、①何らかの形で話をするよう毎日の積み重ねが大事、②業務が立て込むときは割り切って実施しない。カエル会議を積み重ねることで価値を見出したい、③暗黙の了解で担当しているところは、今後検討することとした。また、金、月という連続での教科部会を減らしてほしい旨の要望があった。

問題解決は、次年度評価できると考えている。新任教諭を迎え、新たな意見を聞いたうえで、自分たちのずれを修正することが改革につながると、この中間時点では考えている。



③理科チーム

■ゴールイメージ：生き生きと仕事をする。

■達成度：開始時 55%→現在 70%

■報告概要（発表者：山田教諭）

「生き生きと仕事をする」を目標に3つのアクションを行った。①教材準備における効率性と安全性を高めることで、教材を探す時間が減り、教材の整理では指導法の研修につながった、②見通しを共有することで、理科部会における目標と次回の議事を掲示し、会議内容の充実と、時間の削減になった、③チームとして見通しをもって仕事することで、ホワイトボード等利用する等、情報共有することができた。また、互いの動向を確認できるように各々のカレンダーを設置した。

なお、課題としては、①時間割の入替えに伴い、理科室が使えないこと、②実験道具の不足、③実験準備の時間が少ないことが挙げられた。



④数学科チーム

■ゴールイメージ：仕事も家庭も充実した生活を各々が送る

■達成度：開始時 20%→現在 70%

■報告概要（発表者：橋本教諭）

この改革を「働き方改革への道のり」と題し、速度を上げることで、短い時間でより良い仕事に心がけるとした。目標を決め、①やらなければならないことはすぐ着手し、後回しにしないようすぐ取り組むこととした、また②思いやりのある仕事として、起案文書のデータの中に「備忘録」「覚書」を作り、次年度へ引き



継ぐことで思いを引き継ぐことができる、③幼稚園、保育園の行事への積極的に参加することで、家族が少し優しくなった。

また、英語科の取組み「かえる」「やめる」「へらす」の視点で次の4つをあげた。

①会議の回数、②起案文書の作成、③部活動の時間、④業務の細分化のうち、会議の回数についてはすぐにできないだろうか。

④国語科チーム

■ゴールイメージ：整理整頓

■達成度：開始時 20%→現在 60%

■報告概要（発表者：北村教諭）

抜本的な働き方改革につながることはないかと考えたところ、「整理整頓」としホワイトボードに記録し進めた。

取組は①生徒の作品をどう評価するかについて、最初からコメントして返すのが一番早いとし、指導と評価の一体化を実感した、また、②共有財産の活用のための研究室の片付けについて、部屋の整理をしたことにより、利用していない物、壊れているものの気づきがあり活用・処分していくこととなった。

最終報告会に向け、情報の共有として共有フォルダーの整理、また、頭の中の整理として授業改善の提案があった。今後、報連相を密にして、TT や乗り入れ授業を行うなど、授業改善に取り組みたい。



④保健体育科チーム

■ゴールイメージ：効率的かつ効果的な職務の遂行

■達成度：開始時 60%→現在 70%

■報告概要（発表者：若杉教諭）

限られた時間の中で最大の効果を発揮する仕事の進め方を追求することとした。①教材を共有することで、効率アップだけでなく、それぞれの教材に目を通すことで力を磨くことにもなった、②授業直前の準備が効率化したことで、今まで以上に生徒に目を向ける時間が増えた、③先を見通すことにより、行事の目的や優先事項等を踏まえて、様々な可能性を検討しながら企画・立案することができた。

最終報告会に向け、生徒の学びに即しているかを踏まえた上で、学習の場をできるだけ共有できるような年間指導計画を見直す、②共有フォルダーの内容を追加・更新を加え整理し充実させたい。

今回、効率的かつ効果的に職務を遂行する中で、これまで以上に先をも見通すことや業務の目的を深く考えることができ、教師としての力量を磨くことにつながった。結果、それらが生徒の成長を促すことにもつながっただけでなく、生徒の成長が自分たちの資質の向上、効率性のアップにつながったと思う。

新しいことを始めるのではなく、今までの取組みを見つめ直す、より意識的に職務に当たることを基本とし、今後もカエル会議を進めていきたい。



4. 質疑・感想

働き方見直し推進委員の野崎氏から、休暇について、年次有給休暇の時間休暇は、現在年間 5 日間となっている。次年度からは半日休暇が復活するとの情報共有があった。また、万が一の病気に備えて年次休暇を残しておきたいことについては、病欠休暇があり、風邪などの場合でもこれを利用することが可能なので、今後、年次有給休暇取得の促進に努めてほしいと述べられた。



岡野校長先生から、業務多忙の中、これまでの働き方改革の実施および成果の発表に対し、同校の教諭らに謝辞が述べられた。



藤本副学部長から、日頃の業務を見える化したことと、それを教科の中で共有し、教師としての学びとそれを生徒の学びにつなげていこうとされていた。理科の実験道具不足について、



附属中学校の場合、公立学校と異なり振興費がないため、これは教育学部全体で取り組んだ方が良い。教材を教科で共有しているのであれば、教育学部の先生方とも共有し、これをきっかけに学部と附属がつながっていけばさらにいいと思う。そうすることで先生方の悩む時間が減ることにもなる。このような取組が教育学部全体に広がっていけば良いし、大学全体で共有できるようなシステムになれば更に良いと思う。また、今回の発表に感動した旨の感想が述べられた。

5. 総括

最後に、(株)ワーク・ライフバランス コンサルタントの二瓶氏から、通常、キックオフから中間報告会まで期間が長く、各チームが自立しながら活動を進めていくのは難しいが、おそらくトライアルで進めていただいた英語科チームの影響もあり、ここまで進めていただいたのではないかと感じた。各チーム様々な角度から取り組まれていたと思う。



理科チームは、「片付け」をすることで、探し物時間を短縮され、また同時に頭の中が整理されることで、スッキリ考えられる効果があったと考えられる。脳は視覚情報から入る情報処理が 50%をしめており、視覚情報が整理されることは思考力・生産力を高めることがわかっている。

国語科チームは、働き方改革の根本である生徒の作品を評価することに目を向けていた。自分たちの本質的な業務を変えて行く事によって、より質の高い授業・指導となることに取り組んでいただいたことが大きい。

数学科チームは、仕事を改善することで家庭がやさしくなったということですごく嬉しく思った。

今まで取り組んだことが自分にとってどんないいことがあった今一度振り返り、今後継続する原動力にしていただければと思っている。

英語科チームは、この数カ月で変わったことを身をもって感じた。当初、意識の変化で変えることができるのではないかと気づきを持ったことから始め、できることから着手したことで今回の効果があったのではないかと考える。

最終報告会に向け、これまでやったことを振り返り更に高い目標を掲げ、次の PDCA を回

していくことをつづけてほしい。

また、英語科チームは時間の有効活用ができれば、その先何をしたいのか、さらにありたい姿を考えをひろげていただきたいと締めくくられました。

5. フィードバックシートより

①英語科チーム

- ・互いの進捗の確認ができるボードの準備はとても参考になった。
- ・“突発的な休みに備えた取り組み”は国語科のT Tや乗り入れ授業と関連づけられる工夫だと感じました。
- ・教材・進捗の共有化はすばらしい・・・見える化ですね。
教師としての学びがあるはず！→時短につながる？各人のプロセスも共有できればさらに深化するかも
- ・フォルダに番号を付けるとよい（あるいは日付）
- ・休みを取りづらい理由をチームで共有できたことは精神的な安心材料になったのではないでしょうか
- ・退庁時間をまもることと業務（決められたもの）をすすめることのバランスをとることが大切ではないか？（教科以外の方に負担をかけることになってないか？）
- ・時間を有効活用する。- 先を見通しを持って仕事する。-大事ですね。
- ・教材研究にかける時間は確保したい、そのためにワークシート等の作成の時間を削るために資料等の共有を行っているのだろうなと思いました。
- ・教材の共有は教材研究の時間を生み出すことにつながるか？
早く帰る意識を持ったことで、帰宅時間が早くなったこと以外の効果は？
→持ち帰り仕事や土日出勤は？
→ひとつの仕事にかかる時間が減少した？
非常勤が2人入っていることの効果は？
- ・ボードは研究室にお邪魔した時見ましたが一目でわかるのでとても良いと思います。
英語科はALTやT Tの先生がいらっしゃるので互いに役に立つと思います。
- ・「早く帰る＝任された仕事ができている」になっているのか検討すべきである。職員の誰かにしごとの負担がまわっているのならそれは目標の達成になってないか？
- ・ずいぶん前、英研究室に入った時「ただいま熱血指導中！」のホワイトボードがあって見かけて強烈でした。
↓（がよい！）
それぞれがどこを授業しているか見え、互いの学びにつながるなと思います。

②社会科チーム

- ・「カエル会議を実施できない時は割り切る」というのに共感しました。カエル会議をすることが目的ではないのでそのようなことも必要だなと思いました。
- ・「毎日、何らかの形で情報共有する。」空き時間を工夫して情報共有をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・3人の役割、人間性が分かり良かったです。社会科の場合は個人により教材や持っている資料が違うと思います。見える化、共有化できれば更に学習プリントなど共有できればいいなと思いました。
- ・公立学校の感覚を生かすというのは good
- ・公立中学校の先生の感覚が正しいとも限らないのでは？
- ・3人での情報共有時間の少なさ-きっちりと時間を作るのは難しいのでペアで話すというのはいいですね。
- ・「割り切る」に同感します。教科内での情報共有について課題を挙げていたが社会科の現状を踏

まえると各メンバーが主任等としてそれぞれのフィールドでチームをまとめることに集中すべき状況から、また、時数が多いことから本当に困難だと思います。

- ・情報共有と働き方改革のつながりをもっと教えてほしいです。
- ・意識の改革ができていたと思います。4月以降の進行を楽しみにしております。

③理科チーム

・研究室にカレンダーの設置をするのをまねしたいと思いました。予定、〆切なども記入して視覚化することを実践したいと思いました。

・道具の不足は大学で使っていないものを借りる。数学科でもタブレットを大量に借りっぱなしです。

・理振に対応するものが必要ですね・・・学部も含めて検討ですね。地域教育支援センター、教育学部の備品の活用などもできるかも

・財源確保は仕事の効率化のために必要ですね。設備は大切ですね。

・実験道具についてまずもって校長に相談してください。

・「片づけ」やはり確かに大切ですね。効率的に物事を進めるには欠かせない。私も日頃から意識しています。

・教材研究の時間はどのように生み出すか？

・準備時間がない-どの教科も同じだと思います。その中でどう時間を使っていくかどの教科も課題ですね。

・片付けは「いつ」したのか？実習補助の採用など外部人材の活用に目を向けるべきではないか？

・働き方を変える1つのアクションとして整理整頓というものはとても有効と思います。

情報共有も他の人の業務が把握できるのでとても良いと思います。

④数学科チーム

・そのまま保存するだけでなく「覚書」の追加があると引継ぎもスムーズになると思いました。

・奥様のことを考えられる3人の先生方はステキなだんな様お父さんだと思います。

・家族だけでなく自分の趣味的なことにも時間を活用することも大事だと思いました。

・家庭と仕事の両立のために見通しを持った取り組みですばらしい！！仕事を質と量で考えると質をあげるためには見える化による他者の良い手法を取り入れる。量は内容の取舍選択が必要 or 役割分担

・速さ 時間 学年会の計画的な実施 やらねばならぬと強く思いました！！

・入江先生がご家族に認識してもらえて良かったです。

・主任としてやるべきことを改めて考えました。

・起案文書への「備忘録」の追加、とても参考になりました。確かに実施したことに対する反省が次年度すぐに確認できるようにしておくことは無駄な時間を削ることにつながりますね。

・やらなければならないこと、5～10分で終わることをすぐやる、同感です。大切だと思います。早く帰ることができたのは何故ですか？そこが成った理由を発表してほしい。

・業務の優先度を考えることができるようになってきているように思います。また業務を減らすことを今後も続けていただきたいです。

⑤国語科チーム

・指導と評価の一体化について私も考えていきたいと思います。

・「整理」から評価の仕方、内容の見直しなど深く検討されていて素晴らしいと思いました。ありがとうございました。

・“き”がつく3人の先生 そのとおりです。原点にもどる、片づけ 大切なことだと思います。

・評価に費やす時間（労力）をいかに削減するか考え直すよい機会となりました。

- ・学部との資材・情報のやりとり・・・プリンター等
 - ・共有化のためには言語化が必要ですが国語科ですね。準備室・頭の中の整理整頓、スバラシイ→不要なもの、有なもの取捨選択、時短にもつながりますね。
 - ・“原点に戻る”できるだけよりよい方策を早く見いだすことが働き方改革につながると思いました。やはりどうすればよいか、で悩んでしまう。効率的に話し合いを行うこと。
 - ・さすが！指導と評価の一体化 「気がつく3人」
 - ・「指導と評価の一体化」頭での理解と行動が結び付くために必要なことは何でしょうか
 - ・とりあえずコピー、とりあえずスタンプよりもすぐにコメント&評価の方がよい
- 分かっているけどできない代表格ですね、何を優先するべきかよりも「できるか」に焦点をあてたい。片づけは「いつ」やったのでしょうか？
- ・指導と評価の一体化 同感です。ルーブリックは必ずしも必要なものなのか？
 - ・「指導と評価の一体化」納得です。音楽科もプリンターを購入して業務の効率化を図りたいです。

⑥保健体育科チーム

- ・教材の共有等参考になりました。ありがとうございます。
- ・指導内容を効率的に見直すために3人で話されたことが参考になった。
- ・ファイルの整理により、生かし方が変わってくると思う。情報のしまい方と引き出し方を工夫していきたいと思った。
- ・生徒の学びにつながる発表でよかったです。大学とのつながりが見えてくると更に良いなあと思いました。
- ・限られた時間の中で何をするかは難しいですね。今までやってきたことを見つめる。社会科と同じ方向性だったので納得しました。個々の力量の向上を図るためにと共有することとのつながりは参考になりました。
- ・やはり・・・教材の共有、しくみを整えたいと思います。
力が磨かれる→生徒の成長→働き方改革
- ・逆向き設計！生徒の成長→教師の力↑→効率
- ・業務の目的を見失う時があるので（義務や使命のみの目が行くときがある）一歩立ち止まって考えたい。
- ・技能教科ならではの苦勞、共感します。しかしながら時数や授業会場のことを考えると本当に時間割上、難しさがありますよね。他教科の影響を考えると難しさを超えて実施し続けることのデメリットもありますよね。
- ・「力を磨くために時間を生み出す」共感できます。少しの積み重ねだと思います。
- ・時間割、とてご苦勞があられることがよくわかりました。他教科も同様かこれに近い課題があると思うので一度教科主任会で共有してみては？
- ・授業改善が進んでいるのが見えています！すごい！体育科から生徒の体力、技能が向上されていき生徒がかっこよくなっています。
- ・新しいことをするより今ある業務を意識的にされることは効率的な業務改革と思います。今後共有フォルダの整理がんばってください。

以上